

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372501193		
法人名	有限会社富士松 (フジショウ)		
事業所名	グループホーム輪楽笑Ⅱ (ワツハツハ ツー)		
所在地	愛知県春日井市白山町5丁目8番地6		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月19日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当施設は、閑静で環境の良い住宅地にあります。近くには利用者さんの足で歩いて5分以内に行ける公園が2箇所あり、散歩コースの1つにもなっています。「輪になって楽しく笑って暮らそう」と施設の名称のとおり皆さんには楽しく過ごして頂いております。職員も各々のニーズに合わせて3名で1チームを作り、思いやりとやさしさで心のこもった温かい介護に努めています。開設以来14年になります。ご家族への電話での連絡のほか、毎月「輪楽笑Ⅱ便り」を欠かさず発行し、日常生活の写真や出来事をはじめ、詳細な介護の記録を報告している。現在もご家族と全職員が情報共有化にも取り組んでおり、職員からの家族からの信頼は非常に高いと思う。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372501193-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2372501193-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホーム名にもあるように、利用者が毎日の生活を楽しく、笑い合いながら生活することを目指している。1ユニットでもあるため、利用者に寄り添った支援が行われており、家庭的な雰囲気の中で利用者は毎日の生活を送っている。ホームでは、日常的に外出する機会をつくっており、地域の方の理解を得ながら地域で開催されている「元気の出る会」にホームからも利用者も参加しており、地域の方との交流につながっている。家族とも、毎月ホームに来てもらう機会をつくりながら、職員の支援内容に関する細かな話し合いが行われており、家族との信頼関係を築き取り組みを行っている。また、ホームには看護職員が勤務しており、受診時の利用者への同行支援や体調等の状態変化に合わせた医療面での支援が行われている。利用者、家族にとって、毎日の生活を安心して過ごすことができるホームでもある。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年11月7日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	自分らしく、地域で暮らし続ける事が出来るようサポートすることを「ホームの理念」とし、日常生活の基本となることを職員全員が念頭において支援している。	理念を玄関ホールに掲示しており、職員間で振り返ることで、理念を共有できるように取り組んでいる。毎月の生活を楽しく過ごしながら、地域の一員として生活することを掲げており、地域行事等への参加につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎月開催される「元気の出る会」にほとんど全員が参加し、地域との交流をしている。平成28年には盆踊りに施設も協賛し、利用者も参加した。また、月1回歌謡ボランティア医に来ていただいている。	地域で定期的に行われている「元気の出る会」には、利用者と参加しており、地域の方との交流につなげている。また、ホーム長が地域の中で役職を務めており、地域貢献につながる取り組みが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の65歳以上の方を対象にした「元気の出る会」では、認知症についての理解や「本人が一番苦しんでいます。」そのための支援方法についてお話しするなどしています。実習研修等、要請があれば受け入れていく方針です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回開催している。公的機関の他、民生委員や地元町内会、社会福祉協議会の方が会議に出席され色々参考となる意見もいただいている。施設で行う餅つきなど、地域の方にも参加していただき、輪楽笑への愛着をもっていただいている。	会議は関連ホームと合同で開催しており、各ホームからの報告を行いながら、情報交換の機会につなげている。また、地域の方の出席が得られていることで、地域に関する情報交換の機会にもつながっている。	会議の内容について、多くの家族が知らない現状がある。年に何回かは、会議を知ってもらえるような取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	平成28年4月から、市役所の元職員がホーム長となり、市役所とは日頃の連絡が簡単になれるようになった。また、市からの色々な情報も直ぐに入ってくるようになり、連携がスムーズになった。	市内の介護事業所が集まる連絡会には職員が参加しており、研修会への出席と合わせて情報交換の機会につなげている。また、市の介護相談員がホームを訪問しており、利用者との交流が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	動く自由が入所者の基本的な権利であると理解している。ほとんど行動を制限することはない。外出する時は、人数に応じて複数の職員が同行し、安全安心に努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内には施錠を行わず、職員間で利用者の見守りが行われている。また、職員会議等を通じて事例検討の機会をつくっており、職員の振り返りにつなげる取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員も研修を通じて、虐待に関することは十分理解をしている。利用者に対して一番大切なことであり、そのような事の無いよう常に努めており、マニュアルで熟知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	講習や研修会などの資料で職員は、利用者さんが「いつまでも自分らしく安心して暮らし続けるためには」何が必要かを説明すると共に供覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	従来どおりで、ホームへの入居時に契約に関する内容を十分説明しており、納得の上で入居契約、過去の解約をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所された時は各自の部屋に案内したり、事務所で意見を聞いている。また、内容によっては、運営推進会議の場でも現状を伝えている。	ホームで行われている行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につながっている。ホームでは、利用料の支払い等、定期的にホームに訪問してもらおう機会をつくっている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	以前、家族会を組織し、家族への呼びかけも行われているが、現状は、十分に機能していない。今後に向けた、継続したホームからの働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は月1回の「全体会議」において、運営に関する意見を述べ、職員からも意見を聞き、反映させている。	毎月、職員会議が行われており、今年度からは、法人代表者も出席しており、職員からの意見等が運営に反映できるように取り組んでいる。また、代表者は毎朝、ホームに訪問するようにしていることで、職員との随時の面談等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が楽しく働ける職場であるよう日々努めている。給与水準を上げる事は少し困難な課題であり、平成27年4月より厚労省の指針により少し改善されたが、管理者なりの努力はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等を受ける機会を常に確保している。また受講した内容の報告会や説明会を設けている。毎月の全体会議の後にも研修を行うことがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ホーム長が主に他のホームに出かけて交流しているが、他の施設からの見学もあります。今後はスタッフ同士が相互訪問し、サービスの向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前には必ず本人と面談。利用者本人の意向や希望を聞いたうえで、必ず1泊2日の体験入所を行っている。その人の長所等を生かし、常に利用者と同じ目線で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との面談を通じて、利用者の現在に至るまでの生い立ち等を詳しく聞いている。困っている事や不安に感じている事をよく聞き、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の希望、本人の希望や状態をよく観察している。本人にとってどうする事が一番良いのか、どのように支援すべきかを見極める努力を常にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護が独り歩きしないように、人生の先輩として知識や経験した事を聞き、話題を共有し、利用者の立場になり同じ目線で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月発行する「輪楽笑Ⅱだより」の中で日頃の暮らし方や健康状態をお知らせしている。今後も支援方法を伝えて、職員と家族共々情報を共有していく。また現状では施設職員は、家族から信頼されていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者に知人・友人が訪ねて来ることはほとんど無い。いつでも家族と自由に外出できるように支援をしている。中には月数回、なじみの場所に、外出している方もいる。	利用者により、入居前からの関係の友人、知人がホームに訪問し、利用者との交流が行われている。毎月定期的に参加している地域の行事の際に、友人と交流している方もいる。また、家族と一緒に外出しながら、自宅で過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者全員が対等であるように見守り、一人ひとりの個性や性格を把握している。全員が助け合いながら生活出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様に会ったときには、様子を伺ったり、連絡があるときには相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩をはじめ、歌が好きな人、なぞなぞが得意な人、輪投げの上手な人、好きな人、思い出話をする人など、利用者一人ひとりに合わせて、対応している。	1ユニットのホームでもあるため、利用者に関する情報等は日常的な申し送りでも共有され、意向等が日常の支援につながるよう取り組んでいる。把握した情報については、毎月のカンファレンスでも話し合われており、職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	若い時の思い出や、楽しかった出来事、友人や家族の話題など、家族の協力を得て、情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	グループ制が定着し、日々の行動の中から、出来ること、したいこと等、その人の有する能力や得意とすることなどの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族に施設での生活に何を希望しているかを聞き取り本人の能力を生かす事を念頭に入れている。また、3ヶ月～6ヶ月毎にモニタリングと評価を行い、サービス担当者会議の意見等を「介護計画」に反映し常に継続中。	介護計画は6か月での見直しが行われている。職員間で利用者の詳細をまとめた便りの作成を行っていることで、毎月のモニタリングにもつながっている。また、ホームでは独自に、日常的なチェックが行えるような記録用紙を用意する工夫が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者ごとに毎日記録している「介護記録」や「連絡帳」を参考にして情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期的な訪問診療時の職員の対応はもちろんの事、歯科医院の同行などを行っている。また、家族に代わって役所への窓口手続き等もする。訪問美容でのヘアカット時に一時手伝いをすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	「元気の出る会」に毎月参加し、ストレッチやゲーム・歌などを通して地域の住民と、利用者が触れ合う時間を大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族、本人、ホームの三者で話し合いを行わない、かかりつけ医を決めている。平成28年2月から毎月定期的に協力医療機関医師の訪問診療に切り替え適切に対応している。	ホームでは協力医療機関を変更しているが、新たに訪問診療が行われており、利用者の状態変化に合わせた支援が行われている。また、看護職員が勤務しており、日常的な利用者の健康チェックをはじめ、協力医への情報提供等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	薬の管理は勿論、排便・排尿等健康の管理から食事の介助まで日々支援してくれる。医師による訪問診療時には必ず付き添いや健康に関する助言もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、これまでの経過や状況を正確に情報を提供している。入院中は面会を重ねながら本人の回復状況を把握し家族、病院関係者と連携をとり、退院後の生活について話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	常に身体状況を伝え家族の意向を中心に今後について話し合い、ホームで出来る事出来ないことを説明している。終末期の支援のあり方についても、どう対応すべきか等全員が認識している。主治医と急変した場合の連絡方法について確認をしている。	利用者の身体状態や協力医療機関の対応等、ホームでの支援が可能であれば、重度の方への支援が行われている。ホームでは必要に合わせて行われる医師による往診が可能になったこともあり、家族との段階に合わせた話し合いが行われている。	ホームとしては、ホームの支援内容を整理しながら、利用者の看取りを見据えた支援にも取り組んでいきたい意向である。職員研修等も行われており、ホームの今後に向けた取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを職場研修で確認し備えている。緊急時対応は、「緊急時利用者情報」を整備しており、即時に医療機関と連携できる態勢である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を実施。職員は災害時の対応について認識している。今年は熊本の大震災や岩手県岩泉町のグループホームの災害があり、9月に「地震時の職員の対応」について研修をした。地域の方からの支援体制を築いている。	ホームでは年3回以上の避難訓練を実施するように取り組んでおり、火災、地震等、様々な場面を想定した訓練を実施している。また、今年度は風水害の防災計画を加える取り組みを行っている。また、ホーム倉庫内に必要な備蓄品の確保が行われている。	ホーム近隣の住宅が増えており、地域の方との協力関係についても、新たな取り組みが必要と思われる。ホームの今後に向けた取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に利用者の立場に立って、利用者の尊厳、プライバシーを尊重した言葉をかけ、支援をしている。	ホームでは、職員が利用者一人ひとりに共感するような支援に取り組むように、状況等に合わせた注意喚起等が行われている。また、ホームでは認知症の方への支援についての研修会を実施しており、職員の振り返りの機会をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が一方的に利用者に指示をするのではなく、何がしたいのか、どうして欲しいのか、利用者の気持ちを尊重した支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日常的なスケジュールや決まりを優先させることなく、常に利用者の立場に立って、同じ目線で、出来る限り利用者個々に合った支援を継続している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容の後「髪を切って少し若くなったね」「その服とても似合うね」等の声かけを忘れないように継続している。褒めたりすると利用者に喜びと笑顔が見られる。こんな時は職員も嬉しい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の重度化が進み、食事の準備は出来なくなりましたが、それでも食事は少しでも楽しいものになるよう、好みや量を聞いています。買い物、食事の片付けは職員と一緒にやって行っている。	職員間で、その日の朝の状況をみながらメニューを考えており、利用者の希望や好みにも配慮している。利用者も買い物や片付け等のできることに参加している。また、食事の際には職員とテーブルを囲んで、会話を楽しみながら食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食前にその人の食事量を確認して把握している。夏季に「食中毒」や「熱中症」に注意しながら、利用者には十分に水分を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、各食後自分で出来る方はしていたが、介助が必要な方も出来る限り歯磨きを行い、本人の力に応じて口腔ケアを継続している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介護記録や重度化した利用者は個別管理し、排泄に関しての情報を職員が共有しトイレでの排泄を目指しています。臀部に手を当てる仕草等の様子からトイレ誘導し、排泄の失敗を減らしている。	利用者の身体状態等に合わせた排泄面での支援を行っており、毎日の申し送りや黒板への記載等を通じて職員間の情報の共有につなげている。トイレでの排泄が継続できるように、看護職員を通じて医療面での連携を行う等の取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のラジオ体操とストレッチ等、出来るだけ身体を動かすようにして便秘の予防をしている。また、バイタル管理表で排泄の管理をしたり、食事の内容にも気を付け、常に排便の有無の把握にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週3日を基本に、個人の希望をできる限り叶え、重度の方にはシャワーキャリーを使用するなど、一人ひとりに合った入浴を勧めている。また、急がず、慌てず、ゆったりと入浴を楽しめるよう支援を継続している。	月曜日から土曜日の間で、利用者は週に2～3回程入浴しているが、希望があれば、それ以上の回数も可能である。身体状態に合わせた職員複数での介助が行われている他、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じ自由に休息して頂いている。日中適度な活動を促し、生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護職員の指導の下、適切に対応している。薬の説明書を利用者ごとにファイルして、薬の使用目的などを理解し、薬は手渡しや口に入れたりして確実に服用したかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の意向に沿ってお手伝いをして頂いている。手伝いの後は、労いや感謝の気持ちをしっかりと伝えている。テレビは時代劇・歌謡番組などが好きで楽しんでいる。時には喫茶店にも出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	散歩やドライブは、天候・体調に合わせ、本人の希望を聞きながら支援している。また、車イスのため外出が困難な方は、移動が可能な場所を選んで散歩に出かけている。家族と食事をしたり、太極拳に出掛けられる方もあります。	ホームでは、日常的に外出の機会をつくっており、日曜日については積極的に外出を行うように取り組んでいる他、地域の行事でもある「元気の出る会」に出かけたりしている。また、季節に合わせた花見やいちご狩り等の取り組みも行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族からお金を預かり、事業所で個々の分をキチンと管理している。買物や喫茶店での支払いを本人にさせていただく工夫をしているが、職員が支払う。お金の有難さや大切さを理解してもらえるようである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	最近、電話をかけたり、家族から本人にかかる事は殆ど無い。家族から外出した時に写した写真が届くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や居間、廊下等に利用者が作成した作品をはじめ、絵画や写真などもあり、家庭的な雰囲気を感じ、会話が盛り上がるような工夫をしている。また、季節に合った花を飾り、毎日が居心地良く過ごせるようにしている。	リビングはゆったりとした広さが確保されている他にも、リビングには利用者全員が座ることができるソファの配置が行われており、利用者が日中をのんびりと過ごすことができる。また、リビングの壁には季節感にも配慮した飾り付けが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関先の広場で一人になりたい方はテラスの縁台にのんびりと座っている事もある。利用者同士の会話や交流は、居間のソファでして頂いていますが、一部の方は自室で一人でテレビを楽しまれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人の使用していた家具を置き、写真を飾ったり、安心して居心地良く過ごせるような配慮をしている。	居室には、利用者の意向にもあわせながら、様々な家具類や好みの小物類の持ち込みが行われており、一人ひとりが過ごしやすい居室環境がつけられている。また、畳敷きの居室が用意されており、布団を敷いて生活することも可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	脱衣場に暖房設備を設置するなど、利用者の身体状況に合った環境設備に努めている。施設の環境や毎日のミーティングで話し合い、状況に応じ対応している。		